

社会福祉学科 2年 後期 総合科目

1. 臨床美術の実践Ⅱ
2. 情報処理Ⅱ
3. コミュニケーション論

社会福祉学科			社会福祉 専攻			※前ページ
科目名: 臨床美術の実践Ⅱ				担当教員 氏名: 岡野 宏宣		科目名:
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	臨床美術士4級
実務経験を用いてどのよ、臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として福祉施設での臨床美術の実践経験を生かし、造形素材の理解うな授業を行っているか: やアートプログラムの実践力の向上、福祉施設でのアート活動の実施に向けて授業を行っている。						6
実務経験を用いてどのよ、臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として福祉施設での臨床美術の実践経験を生かし、造形素材の理解うな授業を行っているか: やアートプログラムの実践力の向上、福祉施設でのアート活動の実施に向けて授業を行っている。						7
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。					・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション	
授業における学修の到達目標						8
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8.	
A 知識・理解力			右脳の活性化と認知症について理解することができる。			11
B 専門的技術			状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。			12
D 問題解決力			「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。			13
F チームワーク・リーダーシップ			リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。			14
H コミュニケーション力			造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。			15
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						16
テスト: 0 %		レポート: 30 %		発表: 30 %		実技試験: 30 %
その他: 10 %						17
特記事項: ・臨床美術士4級養成講座は2024年4月に講座内容の改訂を予定しています。それに伴い、臨床美術の実践Ⅰのシラバス内容が一部変更される可能性があります。 ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイング、現場実習の理解と実践力。その他は積極性を指す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の準備を含めた企画、実施、記録を行います。 毎回の準備物: 脳いきいきボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ、鉛筆2Bか4B アクティブラーニング要素:						18
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						19
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						20
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						21
使用テキスト:『臨床美術士養成講座4級』, 芸術造形研究所 『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』, 芸術造形研究所					その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ※本科目は「臨床美術」「臨床美術の実践Ⅰ」の単位取得者のみ受講できます。本科目は日程が不規則になっています。授業日時をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみ記載してあります) 諸事情により実習の予定を変更せざるを得ない場合があります。						22
授 業 計 画						23
				準備学習(予習・復習等)		24
				学習内容	学習に必要な時間(分)	25
回数						26
1	①指導案演習「フリー実習振り返り」			9月20日	【予習】: フリー実習(報告書) 様々な技法を試す・様々な紙を試	420分
2	②臨床美術コミュニケーションⅡ「現場セッションについて」子ども現場セッション			9月20日		27
3	③アートプログラム実践演習「実習にむけて試作」			9月27日	準備物: 指定されたモチーフ	28
4	④臨床美術コミュニケーションⅡ「鑑賞会」			9月27日		29
5	⑤アートプログラム実践演習「ロールプレイング」①			10月4日	【予習】: 課題図書レポート 準備物: 指定されたモチーフ	【予習】240分
						30

社会福祉学科

科目名: 情報処理Ⅱ			担当教員 氏名: 新田雅道						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	総合科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
今後のデジタル社会において、数理・データサイエンスIを日常生活、仕事の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に着けること。					統計基礎、データサイエンス、データの比較、データの集計、個人情報保護、情報漏洩				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力		・データを読み解く力、説明する力、データを扱うための力を養う。							
C 論理的思考力		・情報作成能力を身に付け、活用能力を高める。							
D 問題解決力		・データを利活用する際の留意事項に関する知識習得。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項: ・上記、「その他」では授業の態度、授業中の課題演習の提出状況などで評価する。 ・授業外の予習・復習が不可欠であり、アクティブ・ラーニングとして、学生が主体的に関わる意識を持つことを重視する。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修		ディスカッション、ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業中の後半に毎回課題演習を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業中に出す演習課題については各学生毎にチェックする。									
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)				
					学修内容	学修に必要な時間(分)			
① ガイダンス:数理・データサイエンスを学ぶ事の意義					ビッグデータを活用したビジネス/サービス	【予習】30分 【復習】30分			
② 統計学の基礎知識(サンプリングと母集団)の理解					統計基礎の知識・スキル	【予習】30分 【復習】30分			
③ 統計学の基礎知識(正規分布)の理解					統計基礎の知識・スキル	【予習】30分 【復習】30分			
④ Excelによるデータ編集(入力、演算)の習得					Excelを活用したデータの処理	【予習】30分 【復習】30分			
⑤ Excelによるデータ編集(関数)の習得					Excel関数の活用	【予習】30分 【復習】30分			
⑥ Excelによるデータ分析(グラフ)の習得					Excelによるデータのグラフ化	【予習】30分 【復習】30分			
⑦ Excelを活用した将来予測の習得					分析ツールの利用	【予習】30分 【復習】30分			
⑧ Excelを活用した適正価格の推定の習得					分析ツールの利用	【予習】30分 【復習】30分			
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト: 「イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル Office2016 対応」(noa出版)、適宜資料を配付					その他参考文献など: 情報リテラシー (noa出版)				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業での演習時間が少ないので必ず予習・復習をすること。事前にデータを収集することがある。									

社会福祉学科

科目名: コミュニケーション論			担当教員 氏名: 経田 博子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	総合科目	演習	選択	交流分析士2級受験資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 交流分析士・TAカウンセラー・産業カウンセラーとしての経験を生かして、自分の思考・感情・行動の癖に気づき、コミュニケーション時の選択肢を増やすこと等について教授する						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
コミュニケーション心理学ともいわれる交流分析を学ぶ。人の心の在り様と、思考・感情・行動について分析し、活用方法を学修と演習から学ぶ。また、自分と他者のコミュニケーションパターンを理解し、交流の改善方法について学ぶ。						交流分析・交流パターン・ストローク・傾聴 ・人生の立場・心理ゲーム・時間の構造化 ・人生脚本
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	交流分析の理論を理解し、ワークなどから自己理解を深める					
D 問題解決力	問題に気づき、いろいろな対処方法から「今ここで」必要な対応を理解する					
E 自己管理能力	自分の思考・感情・行動のパターンを理解し、自分の選択に責任を持つ					
F チームワーク・リーダーシップ	ワークショップ・グループワークを通じて、協調性や自分の役割を理解する					
H コミュニケーション力	交流分析の哲学を意識して、より良い人間関係を築く能力を養う					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 80 %	レポート: 10 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: ・上記「その他」においては、授業中の態度、授業中の課題提出・TAシートの書き込み状況などで評価する ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク、発表を行う						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜小テストを行う。授業内で、グループワークの準備やまとめとしてのレポート提出を行う。最終試験は、別に定めた日時に実施する						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜小テスト、レポート課題を行い、採点し個人のは返却する。グループとしてのレポート提出においては、返却はしない。						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容	学修に必要な時間(分)		
①コミュニケーションとは 自己紹介 自我状態 ストローク			【予習】自我状態・ストロークを読む			60分
②ストロークの活用 価値を認める 人生の立場			【予習】人生の立場を読む			予習30分 復習30分
③いろいろな見方 人生の立場 自分の事例・グループワーク			【予習】TAシートP29記入			予習60分 復習30分
④OK・OKの思考・感情・行動 人生の立場 ディスカウント 小テスト			【予習】人生の立場を読む			予習30分 復習30分
⑤心理ゲームとは ゲームの公式			【予習】心理ゲームを読む			予習30分 復習30分
⑥自分がついついしてしまうこと ゲームの図式 代表的なゲーム			【予習・復習】心理ゲームを読む			予習30分 復習30分
⑦嫌な感情の減らし方 ゲームをやめるには・グループワーク 小テスト			【予習】TAシートP35記入			予習60分 復習30分
⑧ラケット感情 ストレスと感情 グループワーク			【予習】心理ゲーム・ラケット感情を読む			予習30分 復習30分
⑨時間の構造化			【予習】時間の構造化を読む			予習30分 復習30分
⑩充実した時間の過ごし方 時間の構造化 小テスト			【予習】TAシートP37記入			予習30分 復習30分
⑪自分の物語 人生脚本とは 幼いころに決めたこと			【予習】人生脚本とはを読む			予習30分 復習30分
⑫自分の中にある禁止令 小テスト			【予習】禁止令を読む			予習30分 復習30分
⑬拮抗禁止令とドライバー プログラム			【予習】ドライバーまでを読む			予習30分 復習30分
⑭ミニスクリプト 自分を止めるもの 許しを与える			【予習】ミニスクリプトまで読む			予習30分 復習30分
⑮自立に向けて 自分がなりた自分			【予習】TAシートP45記入			予習30分 復習30分
使用テキスト: 日本交流分析協会発行 交流分析士2級テキスト・シート			その他参考文献など: 交流分析入門(チーム医療)エゴグラム 使用(前期の人間関係論と同じテキスト)			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 自分や自分の周りの人とより良い関わりができるように、自分を成長させていく貴重な時間です。テキストの理解と共にTAシートの記入など、自身を見直す時間を丁寧になさってください。 前期の「人間関係論」と後期の「コミュニケーション論」の両方で40時間以上受講した人には、2月ごろ実施のNPO法人日本交流分析協会認定「2級交流分析士」(登録商標)の受験資格が与えられます。						